

山と電気の風景論 ⑬

岩木山, 八甲田山～青森県, 津軽・南部の名峰～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

7月は本格的な山登りの季節である。本号では、新緑の森林浴の登山に適する青森県の八甲田山、岩木山を特集したい。

電力出張時に仰ぎ見た両座

青森といえば、日本最大級のエネルギーリサイクル基地があり、石油備蓄や風力などの新エネルギー施設も多い。下北半島には日本経団連が力点を置いた、むつ小川原開発基地がある。筆者は電力マン時代に、東北電力/東京電力の東通原子力発電所サイトを視察するとともに、電気事業連合会広報部時代などで何度も六ヶ所村の日本原燃の原子燃料サイクル施設や、Jパワーの大間原子力発電所サイトや、むつ市の東電・日本原燃のリサイクル燃料貯蔵施設にもマスコミの方方や学識経験者をご案内した。また、源義経・強風伝説の青函トンネル付近の竜飛風力発電所にも新エネルギーの担当時に遠出した。その時にいつも、仰ぎ見たのが、今回の懐かしい両座であった。

多用な電力スタッフの方々にも、青森出張時等の機会にぜひ、懐深い岩木山、八甲田山の東北の自然美を味わってほしい。

前日泊一日登山で留意した点

筆者は青森県内については出張時などによく車を運転したため、両座をつなぐ道は比較的慣れていた。今回のヤマレコは、予定が詰まっていたため前日泊で、一日で両山を駆け巡った記録である。

あわただしい登山であったため、天候をチェックしつつ時間配分を計算して下記を心がけた。これは、新田次郎「八甲田山死の彷徨」が描いた雪中行軍事故を反面教師とした教訓である。雪山でない夏山で



たわわなリンゴ道<スカイライン>から岩木山

あっても、雷雨など天候急変など想定外があるため、この教訓はあてはまると考えている。

- 準備入念、地元で情報収集
- 無理せず引き返し
- マイペース
- あわてず一步一步継続

おかげで、両座登頂の当日、午前の好天の後、午後はガスって夕方遅くの下山となったが、無事、湯治場で疲れを癒すことができた。

岩木山の印象

津軽平野の三角の山、おいわきやま、津軽富士と呼ばれる岩木山は、高度1600mと思えない堂々たる独立峰である。全国ふるさと富士山人気投票で一位であり、津軽人の心の拠り所である。確かに、「眺めてよし、登ってよし、スカイラインをドライブしてよしの山」(地元の知人)である。

岩木山神社は創建780年で、1200年以上の歴史を持つ。ブナの新緑はきれいだった。雪解けの清流にはサンショウウオが棲むという。山の神にお供えし来年の五穀豊穡を祈願する伝統があり、清酒などを供えるという。霊気を感じた。

山のふもとは弘前城などパワースポットが多い。岩木山をバックに春はさくら、夏はねぶた、秋は紅葉、冬は雪燈籠の四季折々の祭があり、時々季節の変わり目に筆者も訪問する。リンゴジュース、マタギ飯もお勧めだ。1100mで森林限界で頂上付近には岩だらけのガレ場が続くが、スカイラインを利用でき短時間に頂上に立つことができ比較的 safely に登頂ができるために人気の高いのだろう。



岩木山山頂より絶景展望。後方には鐘と避難小屋

八甲田山に思う

南部地方の主峰の本山には、温泉、湿原と高山植物、葉草も豊富であり見所が多い。麓には米づくり、レタスなど高冷地野菜や、甘いゴールドラッシュ(とうもろこし)などがある。青森には筆者の好きな田酒、じょっぱり、そして、長芋ベースの焼酎六趣がありうまい。「九州出身醸造家が考案した六趣など開拓者精神が脈々と引き継がれている」(日本原燃幹部)。

八甲田とは、多くの峰々の形を兜(かぶと)のように見立て、山中の湿原=神の田、からきたと青森出身の日本原電幹部の方から聞いた。麓には地獄沼の温泉が湧き、一年中雪に埋もれない。常に生きている山だ。そのなかで明治35年1月の日露戦争に備えた八甲田の雪山遭難事故により、八甲田山は、厳しい山岳のイメージがついた。しかし、地元では、広大な山野林からの恵みをもたらす身近な生活の拠点である。冬もいまはロープウェイでスキーも楽しめるスノーモンスター(青森トマツが雪と氷をまとい樹氷)の景観も素晴らしい。版画家棟方志功が、仙人と八甲田を登り、「神の鷹」に出会った逸話を酸ヶ湯温泉で聞いた。

岩木山1625m(平成27年7月11日)

往復2.6km, 2時間(休憩含む) 標高372m。
岩木山は8号目まで車でスカイラインが利用できる。全長9.8kmのブナ林コースである。岩木神社から30分のドライブで8合目まで到着できる。山頂はガレ場で広く鬱ヶ沢、白神山地、日本海、八甲田山方面が見渡せて涼風のなかグッド・ビューだった。

- 【行程】
- 8:53 弘前駅レンタカー。
 - 9:32 津軽岩木スカイライン入口で登山準備。
 - 9:50 8合目休憩所(1250m)。
 - 山頂が目の前で霊気を感じる。頂上まで距離短く険しく狭い急登が続くものの整備されており危険箇所はない。
 - 10:15 9号目。
 - 10:38 鳳凰ヒュッテ(1440m)。
 - 10:50 岩木山頂上。
 - 避難小屋。快晴で風爽やか。30人ほど頂上の神社参拝。
 - 11:05 頂上から下山。
 - 11:50 8合目休憩所着(岩木山資料館視察。リンゴジュース飲み登山バッジ購入)。
 - 12:00 八甲田山に向けドライブ。

八甲田山大岳1585m(平成27年7月11日)

往復9.1km, 3時間45分(休憩含む), 標高差約700m。
酸ヶ湯には何度となく来ていたが、八甲田は温泉の山であり、いつも火山性ガスの硫黄臭がする。とくに



広い八甲田大岳山頂はガスっていた

地獄湯ノ沢にはガスが立ち込めているため早く通過した。古い火口の跡にはお花畑があって景色がいい。広い湿原もあり、尾瀬のように整備された登山木道をゆったりと歩んだ。八甲田山の楽しみは、湿原、お花畑と温泉など多彩で飽きることがない。反対側からは、ロープウェイもあったが、今回は温泉から、上りは湯ノ沢、帰りは湿原の回遊にした。八甲田山の大きな自然の恵みを体感した。



毛無岱の大草原から八甲田山を遠景

- 【行程】
- 13:30 酸ヶ湯温泉着。
 - 酸ヶ湯でスタミナドリンク飲む。米国からの若い登山者がいて来日歓迎の立ち話をした。
 - 13:40 酸ヶ湯温泉登山口発。
 - 14:20 地獄湯ノ沢。硫黄噴気口、温泉河川トラバース。
 - 14:45 仙人岱(八甲田清水)。
 - 14:52 桜沼。
 - 15:40 鏡沼。
 - 15:55 八甲田大岳頂上。
 - ガスっていたが津軽半島、日本海方面を展望。
 - 16:03 八甲田大岳下山。
 - 16:23 避難小屋。
 - 16:50 毛無岱分岐長いお花畑木道通過。
 - 16:55 下毛無岱休憩所。
 - 17:15 酸ヶ湯温泉着

最後に、青森で育ち八甲田山スキー場の整備にも関わったプロ登山家・スキーヤーの三浦雄一郎氏の言葉を、先日、NHK百名山特集テレビを見てメモしたので記載したい。「人が生きるのに必要な空気のバランスがいい標高は1200~1300mであり、子供らも遊び回れるのは八甲田山です。70歳、80歳でエベレスト登頂できたのは日本の山岳で有酸素低負荷運動をしたからです」「ただし、山は天候が変わりやすいので方向を間違えたらどんなベテランも命取りになる。間違えたら引き返すのが鉄則です」